Ⅲ　基本方針Ⅱ　循環型社会の形成

1　環境基本計画における取組

市では、平成 31(2019)年 4 月から実施している家庭ごみ有料化及び戸別収集など、廃棄物の発生抑制を最優先に掲げた施策を実施するとともに、生ごみを食物資源として循環させる事業や全量プラスチック製容器包装の分別収集・資源化、事業系ごみの排出指導、新たな分別収集・資源化の検討など、さまざまな課題について取り組んでいます。

循環型社会の形成に向けては、資源とごみの総量の抑制に取り組み、総量を抑制してもなお発生するものについては、資源としての循環利用を徹底して環境負荷を低減し、それでも残る廃棄物については、適正な処分に努めています。

令和 7(2025)年度の市民一人 1 日あたりの資源物とごみの総量は（610.2 g/人日）となり、令和 6（2024）年度（625.3 g/人日）と比較するとマイナス 15.1 g/人日、マイナス 2.4%の減少となりました。

数値目標	基準値(2022)	現状値(2025)	目標値(毎年度)
市民一人 1 日あたりの資源物とごみの総量の抑制	654.4 g/人※	610.2 g/人日 (前年度比△2.4%)	前年度比減

※「小平市第四次一般廃棄物処理基本計画」における排出物原単位

(1) 廃棄物の発生抑制(リデュース)

循環型社会の形成に向けて、まずは、廃棄物を発生させないことが肝要であり、市民・事業者の意識改革を促すとともに、食品ロスの削減やプラスチックごみなどの減量への取組を強化しています。

【主な取組】
・食品ロス削減推進計画の策定
・ペーパーレス化の推進
・小売り販売や梱包材削減の推進
・こだいら食べきり協力店登録制度の実施

数値目標	2023 年度	現状値(2025)	目標値(2030)
燃やすごみに含まれる可燃性資源（雑がみ、雑誌など）の抑制	8.8%	8.2%	10%

※ごみ組成分析調査については、2 年に 1 度実施している。

(2) 資源の循環利用(リユース・リサイクル)

市では、平成 31(2019)年 4 月に分別方法の変更を行い、プラスチック製容器包装の全量資源化に努めています。また、リサイクルきゃらばんなどの活動を通じて、陶磁器食器や小型家電、廃食油等の回収を行っており、資源の循環利用を進めています。

今後も、様々な品目でリユース・リサイクルに努めるとともに、学習機能を備えたリサイクルセンターやごみ分別アプリなどのツールを活用し、啓発を行い、分別や資源化の徹底を推進していきます。

【主な取組】

・ごみ分別アプリの活用
・リサイクルの促進(小型家電、陶磁器食器、剪定枝、廃食油等)
・リユースサイト(ジモティー、おいくらなど)の利用促進(家具、子育て用品等)



リサイクルセンター



ごみ分別アプリ

数値目標	前年度(2024)	現状値(2025)	目標値(毎年度)
資源物行政回収量の抑制※	10,406 t	10,134 t (前年度比△2.6%)	毎年度比減

※生産・販売だけでなく廃棄以降の段階まで関わる責任（拡大生産者責任）の考え方を踏まえ、事業者の店頭回収等を推進することにより、廃棄物の発生抑制やリサイクルを促進し、さらに行政回収量を抑制する。

(3) 適正処理の維持・向上

市では、平成 31(2019)年 4 月から家庭ごみ有料化及び戸別収集へ移行するとともに、リサイクルセンターを開設しました。

小平・村山・大和衛生組合では、同時期に新設のプラスチック製容器包装・ペットボトルの中間処理施設(エコプラザ スリーハーモニー)が稼働しました。

また、令和 2(2020)年 4 月から新不燃・粗大ごみ処理施設、令和 7(2025)年 10 月から新ごみ焼却施設が稼働しています。

引き続き、家庭・事業者からの廃棄物の適正排出の指導に努めていきます。

2　清掃事業の概要

(1) 循環型社会の形成に向けた取組

ごみの問題は、今や環境問題として社会的に深刻であり、重要な行政課題となっています。また、資源の保護や環境保全の面からも重要な課題です。少しでもごみを減らすために、市民・事業者・行政が連携し懸命になって取り組んでいく必要があります。

従来の大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会構造は、私たちに多くの恩恵をもたらす一方で、生産、流通、消費、そして廃棄物処理の各過程において多くの資源・エネルギーを消費し、多大な環境負荷を生じさせています。

小平市では市民と事業者の協力の下、資源の分別収集を市内全域で実施し、リサイクル率を高めてきました。

また、小平市は、平成 31(2019)年 4 月 1 日に実施した家庭ごみ有料化及び戸別収集など、廃棄物の発生抑制を最優先に掲げた施策を実施するとともに、生ごみを食物資源として循環させる事業や全量プラスチック製容器包装の分別収集・資源化、事業系ごみの排出指導、新たな分別収集・資源化の検討など、さまざまな課題について取り組んでいます。

これらの課題への取組をさらに進めるために、廃棄物の減量と処理に係る事業の根幹となるものとして、令和 5(2023)年 3 月に「小平市第四次一般廃棄物処理基本計画」を策定し、さらなる循環型社会の形成に向けた取組を行います。

(2) 清掃費の推移

①　清掃費財源の年度別推移(決算額)

小平・村山・大和衛生組合の分担金の減少などにより、令和 7(2025)年度の清掃費は減少しています。

【清掃費財源の年度別推移（決算額）】　（単位：千円）

年度	一般財源	ごみ処理手数料	し尿処理手数料	国・都支出金	基金繰入金	その他	合計
2021	1,822,494	665,164	7,475	701,690	222,809	91,094	3,510,725
2022	2,014,624	645,615	6,845	692,800	0	1,455	3,361,339
2023	2,128,046	681,820	7,708	679,055	0	3,601	3,500,230
2024	2,055,511	694,305	6,720	701,526	0	2,861	3,460,923
2025	1,955,194	688,038	6,700	720,784	0	1,225	3,371,941

※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

【ごみ減量・リサイクル推進基金への積立額の推移】（単位：千円）

年度	積立額	年度末現在額
2021	134,513	143,268
2022	180,010	323,278
2023	171,711	494,989
2024	193,643	688,632
2025	204,771	893,403

② 清掃費の年度別推移(決算額)　　（単位：千円）

年度	清掃総務費		塵芥処理費		し尿処理費		資源循環推進費		歳出額合計	
	決算額	%	決算額	%	決算額	%	決算額	%	決算額	%
2021	105,130	3.0	2,717,043	77.4	52,013	1.5	636,539	18.1	3,510,725	100.0
2022	104,753	3.1	2,680,103	79.7	49,079	1.5	527,404	15.7	3,361,339	100.0
2023	107,095	3.0	2,809,383	80.3	44,972	1.3	538,780	15.4	3,500,230	100.0
2024	112,864	3.3	2,749,491	79.4	44,626	1.3	553,942	16.0	3,460,923	100.0
2025	114,319	3.4	2,625,837	77.9	46,717	1.4	585,068	17.3	3,371,941	100.0

※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

③ 令和 7(2025)年度予算額

一般会計総予算額	90,286,000 千円
清掃費総予算額	3,397,995 千円
一般会計に対する割合	3.8%

※当初予算ベース

④ 一部事務組合分担金・負担金の年度別推移　　(単位：千円)

年度	小平・村山・大和衛生組合	東京たま広域資源循環組合	湖南衛生組合
2021	1,186,918	377,284	25,336
2022	1,156,654	355,791	22,659
2023	1,260,576	361,127	18,259
2024	1,149,256	367,344	18,182
2025	933,531	439,014	20,194

⑤ 令和 7(2025)年度ごみ処理にかかる決算状況

【歳入】

清掃手数料（家庭系廃棄物処理)※1	465,984,330 円
清掃手数料（事業系一般廃棄物処理)※2	51,072,400 円
清掃手数料（持込み廃棄物処理)	157,982,800 円
清掃手数料（臨時収集廃棄物処理)	52,620 円
清掃手数料（粗大ごみ処理)	52,649,400 円
清掃手数料（し尿処理、浄化槽汚泥処理)	6,700,200 円
資源回収売払金	165,121,025 円
その他（許可申請手数料、指定収集袋広告収入など)	1,400,806 円
計	900,963,581 円

※1　家庭用指定収集袋

※2　事業系指定収集袋

【歳出】

指定収集袋等販売手数料	50,060,647 円
指定収集袋等製造・管理等業務委託	161,205,134 円
ごみ収集運搬業務委託	900,147,600 円
資源物収集運搬業務委託	381,559,200 円
し尿収集運搬業務委託	26,522,535 円
粗大ごみ等収集運搬、受付業務委託及びシステム等賃貸借	83,490,550 円
資源回収団体補助	12,434,778 円
食物資源収集運搬及び食物資源堆肥化業務委託	13,374,086 円
小平市リサイクルセンター長期包括運営業務委託	131,479,588 円
小平・村山・大和衛生組合分担金	933,531,000 円
東京たま広域資源循環組合負担金	439,014,000 円
湖南衛生組合分担金	20,194,000 円
その他（職員人件費、物品購入費、上記以外の委託費など）	218,928,020 円
計	3,371,941,138 円

⑥　ごみ処理量と資源化量の推移

品目			2021 年度		2022 年度		2023 年度		2024 年度		2025 年度	
①人口（人)※各年度４月１日現在			195,014		196,543		196,388		196,493		197,567	
②燃やすごみ												
年間排出量（ｔ）	収集	合計	27,596	31,644	27,053	31,147	26,112	30,091	26,065	30,106	25,593	29,629
	持込		4,048		4,094		3,979		4,041		4,036	
対前年比（%）			-1.0%		-1.6%		-3.4%		0.0%		-1.6%	
一人１日あたり排出量（ｇ）			444.6		434.2		418.6		419.8		410.9	
③燃やさないごみ												
年間排出量（ｔ）	収集	合計	1,629	1,663	1,549	1,576	1,443	1,463	1,502	1,517	1,455	1,470
	持込		34		27		20		15		15	
対前年比（%）			-8.5%		-5.2%		-7.2%		3.7%		-3.1%	
一人１日あたり排出量（ｇ）			23.4		22.0		20.4		21.2		20.4	
④粗大ごみ												
年間排出量（ｔ）	収集	合計	1,348	1,374	1,263	1,269	1,186	1,223	1,235	1,239	1,212	1,220
	持込		26		6		37		4		8	
対前年比（%）			-4.3%		-7.6%		-3.6%		1.3%		-1.5%	
一人１日あたり排出量（ｇ）			19.3		17.7		17.0		17.3		16.9	
⑤ごみ処理量合計（②+③+④）												
年間排出量（ｔ）	収集	合計	30,573	34,681	29,865	33,992	28,741	32,777	28,802	32,862	28,260	32,319
	持込		4,108		4,127		4,036		4,060		4,059	
対前年比（%）			-1.5%		-2.0%		-3.6%		0.3%		-1.7%	
一人１日あたり排出量（ｇ）			487.2		473.8		456.0		458.2		448.2	
⑥資源（行政回収)※拠点回収を含む												
ビン（ｔ）			1,280		1,213		1,201		1,147		1,025	
カン（ｔ）			476		460		435		429		410	
紙類（ｔ）	収集	合計	5,974	5,993	5,847	5,861	5,550	5,565	5,361	5,374	5,244	5,256
	持込		19		14		15		13		12	
古布・ふとん（ｔ）			952		895		858		676		769	
紙パック（ｔ）			7		7		7		7		7	
ペットボトル（ｔ）			484		507		538		550		525	
プラスチック製容器包装（ｔ）			1,888		1,866		1,785		1,775		1,712	
金属類（ｔ）			157		145		134		152		145	
剪定枝（ｔ）			17		12		13		11		15	
生ごみ一次処理物（ｔ）			23		22		22		24		25	
食物資源（生ごみ)（ｔ）			91		86		80		74		71	
陶磁器（ｔ）	(持込)		11		14		11		12		8	
スプレー・ガス缶（ｔ）			43		43		45		45		47	
ライター（ｔ）			3		2		2		3		2	
小型家電（ｔ）			7		6		7		9		9	
⑦資源（優良粗大ごみ)（ｔ）			41		45		42		50		66	
⑧資源（有害性資源)（ｔ）			69		67		54		68		43	
⑨資源（集団回収)（ｔ）			1,769		1,700		1,607		1,578		1,552	
⑩資源化量合計（⑥+⑦+⑧+⑨）												
年間排出量（ｔ）	収集	合計	13,281	13,311	12,923	12,951	12,380	12,406	11,959	11,984	11,667	11,687
	持込		30		28		26		25		20	
対前年比（%）			-4.1%		-2.7%		-4.2%		-3.4%		-2.5%	
一人１日あたり排出量（ｇ）			187.0		180.5		172.6		167.1		162.1	
⑪廃棄物総量（⑤+⑩）			47,992		46,943		45,183		44,846		44,006	
年間排出量（ｔ）	収集	合計	43,854	47,992	42,788	46,943	41,121	45,183	40,761	44,846	39,927	44,006
	持込		4,138		4,155		4,062		4,085		4,079	
対前年比（%）			-2.2%		-2.2%		-3.7%		-0.7%		-1.9%	
一人１日あたり排出量（ｇ）			674.2		654.4		628.6		625.3		610.2	
⑫資源化率（%）			27.7%		27.6%		27.5%		26.7%		26.6%	
⑬組合資源化量（ｔ）			2,335		2,035		1,373		1,314		778	
⑭総資源化率（%）			32.6%		31.9%		30.5%		29.7%		28.3%	

※一人１日あたりの排出量は、年間排出量を人口・年間日数で除したものです。
※⑩資源化量合計、⑪廃棄物総量及び⑫資源化率には、⑬組合資源化量を含みません。
※⑫資源化率＝⑩資源化量合計/⑪廃棄物総量
※⑭総資源化率＝(⑩資源化量合計＋⑬組合資源化量)/⑪廃棄物総量
※⑬組合資源化量は、燃やすごみ、燃やさないごみから選別等を行い、3 市の合計から按分したものです。
※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

平成 31(2019)年 4 月に実施した家庭ごみの有料化により、令和元(2019)年度の資源物とごみの総量は大きく減少しましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大によって、ステイホームなどの新たな生活様式が広がった令和 2(2020)年度の資源物とごみの総量は増加に転じました。その後、新型コロナウイルス感染症の状況に落ち着きが見え始め、コロナ禍以前の生活を取り戻しはじめた令和 3(2021)年度からは資源物とごみの総量は再び減少に転じ、令和 7(2025)年度まで減少傾向が続いています。

＜参考＞

【小平市一般廃棄物処理基本計画　数値目標の推移】

年度	2021	2022	2023	2024	2025	現計画目標値 2032 年度
排出物原単位（g/人日）	674.2	654.4	628.6	625.3	610.2	616.0g/人日
処理ごみ量原単位（g/人日）	487.2	473.8	456.0	458.2	448.2	432.0g/人日
収集ごみ量原単位（g/人日）	429.5	416.3	399.9	401.6	391.9	モニター指標 （毎年度）
持込ごみ量（t/年）	4,107	4,127	4,037	4,060	4,058	モニター指標 （毎年度）
収集時リサイクル率（%）	27.7	27.6	27.5	26.7	26.6	モニター指標 （毎年度）
最終処分量（t/年）	3,371	3,333	3,421	3,391	3,210	モニター指標 （毎年度）

排出物原単位は、市が処理に関与する資源物とごみの総量を市民一人、1 日当たりの量に換算したもので、発生抑制がどのくらい図られているかがわかる指標となります。一人 1 日当たりの排出量が小さくなるほど、発生抑制が図られたといえます。

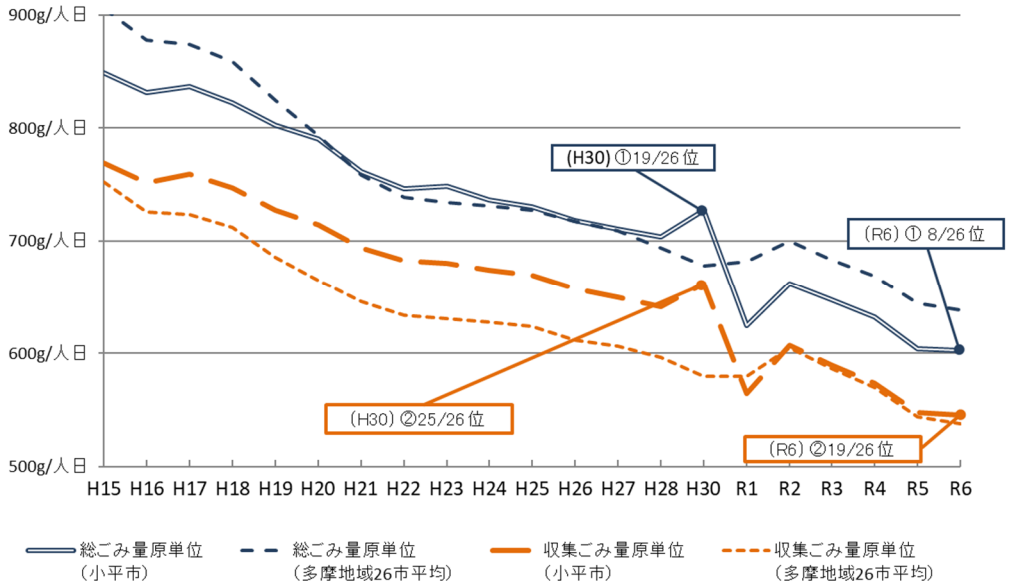
令和 14(2032)年度の目標値は、市民一人 1 日当たり 616.0 g と設定しています。令和 7(2025)年度の実績は 610.2 g で、前年度と比較して 15.1 g、約 2.4%減となっています。

また、処理ごみ量原単位は、資源物とごみの総量のうち、ごみのみの量を市民一人 1 日当たりに換算したもので、ごみの発生抑制とともに、資源化品目の拡大と分別の徹底の効果を計る指標となります。

令和 14(2032)年度の目標値は、市民一人 1 日当たり 432.0 g と設定しています。令和 7(2025)年度の実績は 448.2g で、前年度と比較して 10.0 g、約 2.2%減となっています。

＜参考＞

【小平市と多摩地域 26 市平均との比較】



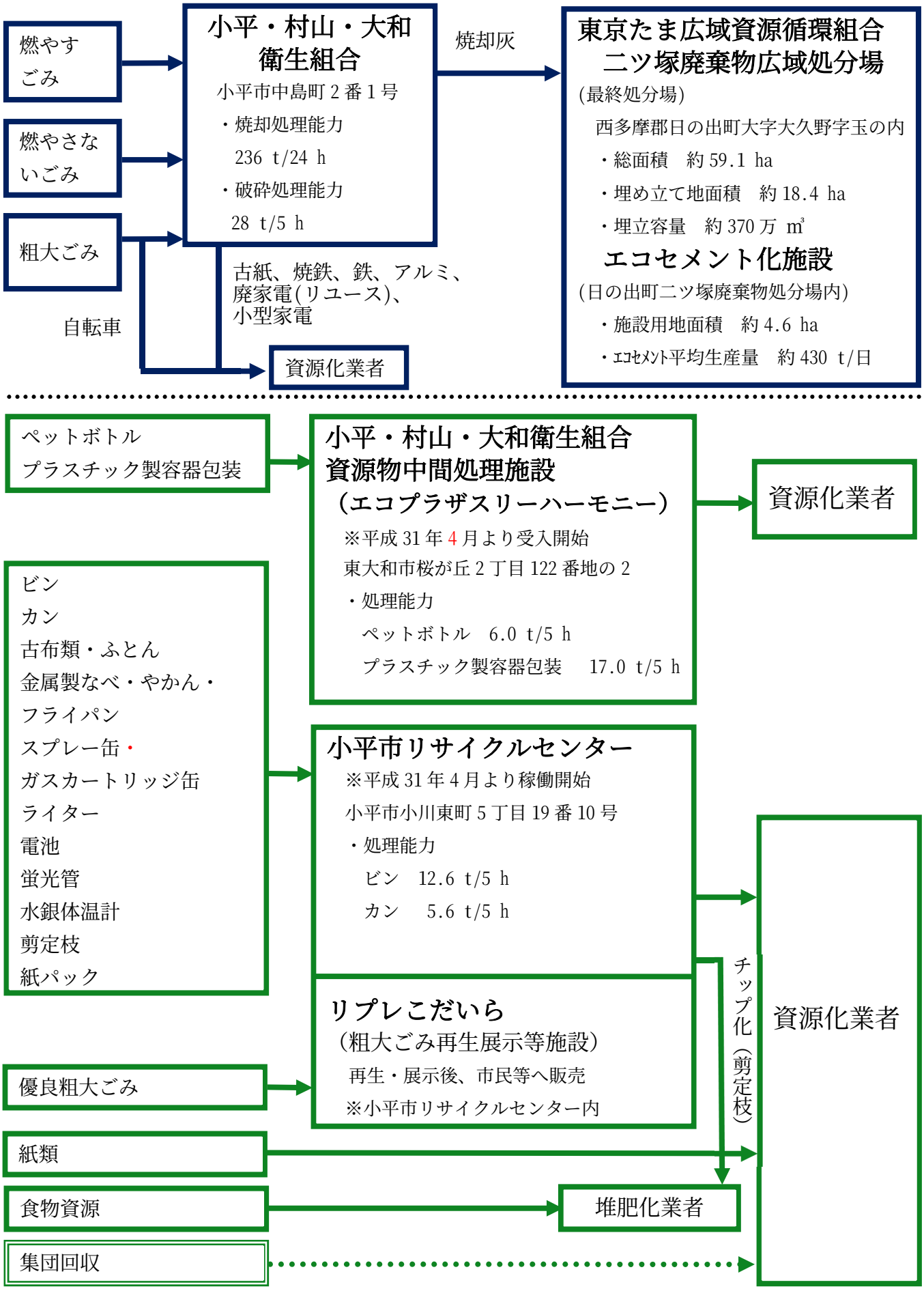
	平成 30 年度(有料化前)	令和 6 年度
① 総ごみ量原単位	19 位	8 位
② 収集ごみ量原単位	25 位	19 位



収集の様子



【資源とごみの処理の流れ】(令和 7(2025)年度)



3　ごみ処理事業

(1) ごみ処理事業の概要

小平市では、昭和 40(1965)年に東大和市、武蔵村山市と共同して小平・村山・大和衛生組合を設立し、ごみの焼却処理等をしてきましたが、その後、ごみ量の増大とごみ質の変化等に対応するため施設の増改築を繰り返し現在に至っています。また、より環境に配慮した清掃工場とするためにバグフィルターや白煙防止装置の設置を実施してきました。

施設の老朽化・旧式化等による課題に対応するため、平成 26(2014)年度に「3 市共同資源化事業基本構想」を策定し、資源物処理施設や不燃・粗大ごみ処理施設、ごみ焼却施設の整備・更新について方針等を定めました。

その後、平成 27(2015)年度に「(仮称)3 市共同資源物処理施設整備実施計画」及び「(仮称)不燃・粗大ごみ処理施設整備基本計画」を策定し、平成 28(2016)年度より小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設の設計・建設工事を、平成 29(2017)年度より不燃・粗大ごみ処理施設の設計・建設工事をそれぞれ開始しました。

そして、平成 31(2019)年 4 月に小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設が竣工し、資源物の受け入れを開始しました。また、令和 2(2020)年 3 月に不燃・粗大ごみ処理施設が竣工し、同年 4 月より稼働、令和 7(2025)年 9 月に新ごみ焼却施設が竣工し、同年 10 月より稼働しております。

ごみの最終処分地は、昭和 55(1980)年に東京都三多摩地域廃棄物広域処分組合（現・東京たま広域資源循環組合）を設立し、昭和 59(1984)年から日の出町の谷戸沢最終処分場で埋め立てを開始し、平成 10(1998)年には埋立が終了しましたが、続いて同じ日の出町に二ツ塚最終処分場を建設し、現在組織市 25 市 1 町のごみを搬入しています。また、二ツ塚最終処分場の延命化及び資源の再利用化を目的として、焼却灰をセメントにリサイクルする「エコセメント化事業」に取り組んでおり、現在、焼却灰すべてがエコセメントとして、利用されています。

市では、平成 5(1993)年度に市内全域での資源の分別収集を行うため収集日の変更を実施し、平成 8(1996)年度には粗大ごみを有料としました。また、平成 10(1998)年度には収集日を再度変更して排出抑制と資源化の強化に取り組み、平成 12(2000)年 10 月には事業系一般廃棄物の全面有料化を実施する等、自己処理の徹底、ごみの排出抑制、資源の有効利用の促進はもとより、中間処理施設への負担軽減や最終処分場への搬入量の減量化に努めてきました。

一方、平成 16(2004)年 8 月より小平市粗大ごみ受付センターを開設し、受付日時の拡大等のサービス向上を図るとともに、受付業務の迅速化、効率化を図り、平成 17(2005)年 11 月から、インターネット受付を開始しました。

平成 19(2007)年 4 月には、小平市清掃事業協同組合と「災害時におけるごみ、し尿、がれきの処理活動等の応援に関する協定書」を締結、平成 29(2017)年 4 月には、東多摩再資源化事業協同組合と「災害時における災害廃棄物運搬等の協力に関する協定書」を締結し、災害時の協力体制を整えました。

平成 21(2009)年度には、市と小平市清掃事業協同組合で「新型インフルエンザに係る業務継続計画」を作成しました。そして、平成 28(2016)年度には、小平市清掃事業協同組合と高齢者等の見守りに関わる協定を締結しました。

令和元(2019)年度には、家庭ごみ有料化及び戸別収集へ移行しました。また、令和 5(2023)年 4 月には、事業系一般廃棄物処理手数料を改定し、手数料の適正化を図りました。

今後も、廃棄物の発生抑制、繰り返し使う再使用の推進、そして資源としての再利用やエネルギーとしての利用に努め、さらに再利用ができない物については環境に配慮した適正な処理をする等、循環型社会の構築に向けて市民、事業者、行政が一体となって、持続可能な施策の取組や新たなごみ減量策を行っていかなければなりません。そのため、令和 5(2023)年 3 月には、令和 14(2032)年度までの市の廃棄物行政の根幹となる、小平市第四次一般廃棄物処理基本計画を策定しました。

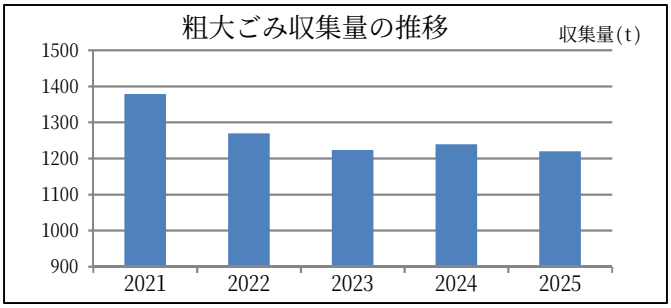
(2) 粗大ごみ収集

粗大ごみの受付件数は、新型コロナウイルス感染症感染拡大によるステイホームなどの新しい生活様式の中、家の中の整理を行う家庭が増え、令和 2(2020)年度には大きく増加しましたが、令和 3(2021)年度以降は受付件数、収集量ともに落ち着きを取り戻しました。

なお、受付件数について月別にみた場合、年末の大掃除に向けて 11 月と 12 月が多い傾向にあります。

【粗大ごみ収集年度別推移】

年度	粗大ごみ			
	受付件数(件)	対前年比	収集量(t)	対前年比
2021	66,982	-3.4%	1,374	-4.3%
2022	65,203	-2.7%	1,269	-7.6%
2023	63,322	-2.9%	1,223	-3.6%
2024	65,583	3.6%	1,239	1.3%
2025	64,707	-1.3%	1,220	-1.5%



【粗大ごみ等処理受付件数(令和 7(2025)年度月例)】

	件数
4 月	5,482
5 月	5,546
6 月	5,284
7 月	5,229
8 月	5,319
9 月	5,091
10 月	5,413
11 月	5,764
12 月	6,230
1 月	5,217
2 月	4,493
3 月	5,639
合　計	64,707



収集された粗大ごみ

(3) 不法投棄・動物の死体処理

不法投棄されたごみの処理責任は敷地管理者にあるため、資源循環課ではごみ集積所跡地などに不法投棄されたごみを処理しています。

動物の死体は、飼い主がいない猫、鳥、ネズミなどが多く処理されています。

【不法投棄】(収集委託分)

年度	計
2023	60
2024	54
2025	15

【動物死体処理件数】(収集委託分)

動物の死体（収集回数）							
	犬		猫		その他		計
年度	飼	飼い主がいない	飼	飼い主がいない	飼	飼い主がいない	
2023	7	0	16	59	6	234	322
2024	5	0	12	42	2	255	316
2025	4	0	7	41	5	274	331

(4) ごみ投入実績比較

燃やすごみは、ごみ全体の約 9 割を占めています。

【ごみ投入実績】　(単位：ｔ)

	収集	持込	計	割合
燃やすごみ	25,593	4,036	29,629	91.7%
燃やさないごみ	1,455	15	1,470	4.5%
粗大ごみ	1,212	8	1,220	3.8%
計	28,260	4,059	32,319	100.0%
%	87.4%	12.6%	100.0%	-

※持込には、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 7 条の許可業者による搬入や臨時持込などが含まれます。

※端数処理のため割合の計が一致しないことがあります。

(5) 家庭ごみ組成分析調査｜令和 7(2025)年度※※調査は 2 年毎に実施

家庭ごみに含まれる資源物や不適正物及び食品ロスの割合を把握し、更なるごみ減量とリサイクル推進を図るため、2 年に 1 度家庭ごみの組成分析の調査を行っています。燃やすごみの中には 15.5%、燃やさないごみの中には 26.2%、プラスチック製容器包装の中には 16.1%の分別不適物が入っており、適正な分別をしていく必要があります。

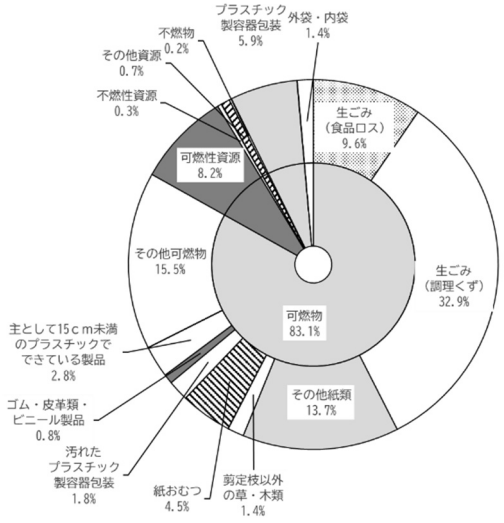
	可燃性資源	不燃性資源	有害性資源	その他資源	可燃物	不燃物	プラスチック製容器包装	収集不適物	外袋・内袋	適正分別	分別不適物
燃やすごみ	8.2	0.3	0.0	0.7	83.1	0.2	5.9	0.0	1.4	84.5	15.5
燃やさないごみ	0.3	2.8	0.5	0.0	18.6	73.0	1.7	2.3	0.8	73.8	26.2
プラスチック製容器包装	0.2	1.1	0.0	1.1	12.6	1.1	79.8	0.0	4.1	83.9	16.1

※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

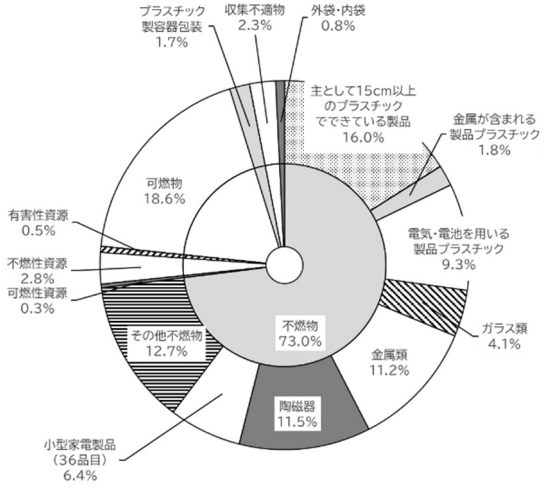
【家庭ごみ組成分析調査結果】令和 7(2025)年度　(単位：%)

※ごみ中の水分を含んだ状態での分析(湿ベース)

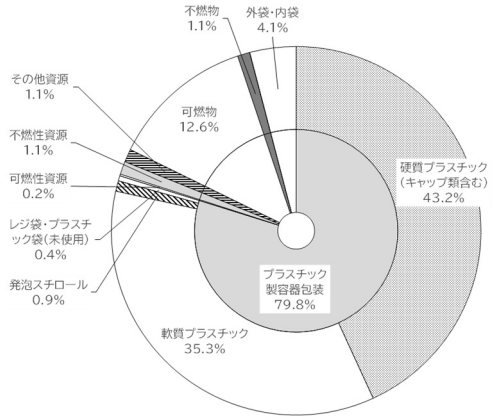
燃やすごみ組成



燃やさないごみ組成



プラスチック製容器包装



(6) ごみ処理施設

① 中間処理施設

小平市のごみは、小平市・東大和市・武蔵村山市の 3 市で構成される小平・村山・大和衛生組合によって処理されています。

名称	小平・村山・大和衛生組合		
所在地	小平市中島町 2 番 1 号		
電話番号	(042)341-4345		
敷地面積	約 19,780 ㎡ (組合所有　約 9,540 ㎡、小平市借地　約 10,240 ㎡)		
施設概要	不燃物積替場		昭和 43(1968)年 12 月竣工　約 690 ㎡
	廃水処理施設		昭和 50(1975)年 3 月竣工　51 ㎥/24 h 昭和 63(1988)年 3 月竣工　無放流化に改良 令和 3(2021)年 3 月　運転終了
	粗大ごみ処理施設 （破砕選別施設）		昭和 50(1975)年 10 月竣工　75 t/5 h 平成 10(1998)年 3 月選別装置改造 令和 2(2020)年 3 月　運転終了
	不燃・粗大ごみ処理施設 （破砕選別施設）		令和 2(2020)年 3 月竣工　28 t/5 h
	焼却施設 (3 号炉)	昭和 50(1975)年 3 月竣工　150 t/24 h 平成 2(1990)年 11 月　大規模改造 平成 15(2003)年 3 月バグフィルター設置 令和 2(2020)年 12 月　運転終了	
		炉形式	全連続燃焼式ストーカ炉
		工場棟	鉄筋コンクリート・鉄骨造　地上 3 階、地下 2 階
		煙突	溶接鋼板製　地上 59.5 m
	焼却施設 (4･5 号炉)	昭和 61(1986)年 11 月竣工 平成 15(2003)年 3 月バグフィルター設置 105 t/24 h×2 炉 令和 7(2025)年 6 月　運転終了	
		炉形式	全連続燃焼式ストーカ炉
		工場棟	鉄筋コンクリート・鉄骨造　地上 4 階、地下 1 階
		煙突	外筒：鉄筋コンクリート造 内筒：鋼板製　地上 100 m
	焼却施設 (1･2 号炉)	令和 7(2025)年 9 月竣工　118t/24h×2 炉	
		炉形式	全連続燃焼式ストーカ式焼却炉
		工場棟	鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造 地上 4 階、地下 3 階
		煙突	工場棟一体型煙突 外筒：Ｓ造 内筒：鋼製　地上 59.5 m
設立の経緯	昭和 35(1960)年		当時の小平町が現在の場所をごみ処理施設に都市計画決定し、焼却場を建設
	昭和 40(1965)年 2 月 1 日		3 市による一部事務組合を設立、共同処理事業に移行。 小平市施設を引継ぎ処理

② 小平・村山・大和衛生組合投入量

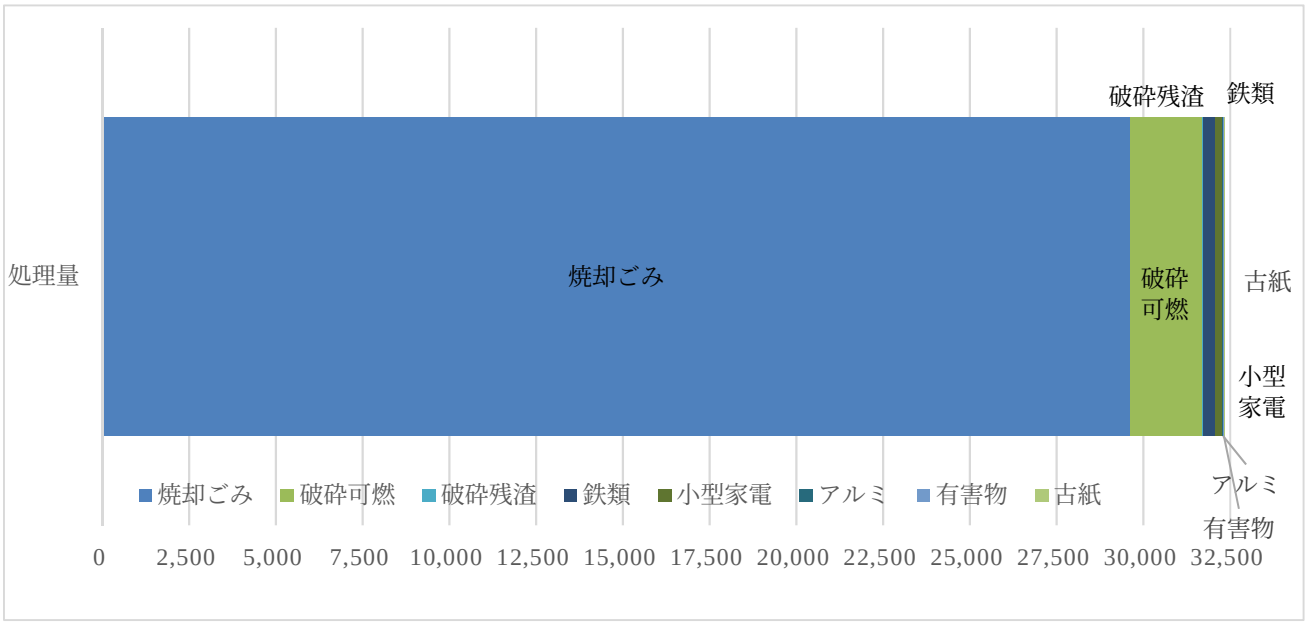
3 市のごみの投入量は下表のとおりとなっています。また、投入割合は、小平市が 54%、東大和市が 24%、武蔵村山市が 22%となっています。

【小平・村山・大和衛生組合投入実績表】 （単位：t）

※端数処理のため、小平・村山・大和衛生組合公表の数字とは異なる場合があります。

年度	小平市		東大和市		武蔵村山市		合 計	内訳(３市分)					
								燃やすごみ		燃やさないごみ		粗大ごみ	
	投入量	投入割合	投入量	投入割合	投入量	投入割合		量	割合	量	割合	粗大	割合
2021	34,681	53%	15,365	23%	15,803	24%	65,849	60,323	92%	3,401	5%	2,125	3%
2022	33,992	53%	15,036	24%	14,884	23%	63,912	58,689	92%	3,210	5%	2,013	3%
2023	32,777	54%	14,359	24%	13,223	22%	60,359	55,875	93%	2,615	4%	1,869	3%
2024	32,862	55%	14,211	24%	13,210	22%	60,283	55,682	93%	2,688	4%	1,913	3%
2025	32,319	54%	14,092	24%	13,068	22%	59,479	54,936	93%	2,641	4%	1,902	3%

【小平・村山・大和衛生組合処理実績(小平市分)】 (単位：t)



焼却量 31,684 t＝焼却ごみ 29,628 t＋破砕可燃 2,056 t

焼却残渣（焼却灰）3,210 t →エコセメント化(埋立処分量なし)

破砕残渣 45 t →資源化

③　小平・村山・大和衛生組合ダイオキシン類の測定結果

令和 7(2025)年度のダイオキシン類の測定結果は以下のとおりです。

【小平・村山・大和衛生組合ダイオキシン類の測定結果】

	測定項目	排出ガス (煙突)	焼却灰	ばいじん	排出水
	(単位)	(ng-TEQ/m^3N)	(ng-TEQ/g)	(ng-TEQ/g)	(pg-TEQ/^{リットル})
	基準値	1	3	3	10
4 号炉	測定日：R7.4.22	0.026	0.0014	0.32	0.000024
5 号炉	測定日：R7.4.28	0.042	0.0040	0.43	

測定項目	排出ガス (煙突)		焼却灰		ばいじん		排出水
(単位)	(ng-TEQ/m^3N)		(ng-TEQ/g)		(ng-TEQ/g)		(pg-TEQ/^{リットル})
基準値	0.1		3		3		10
採取日	R7.8.9	1 号炉：R8.2.13 2 号炉：R8.3.2	R7.10.7	1 号炉：R8.1.22 2 号炉：R8.1.9	1 号炉：R7.10.30 2 号炉：R7.11.6	1 号炉：R8.1.22 2 号炉：R8.1.9	R8.2.2
1 号炉	0.000013	0.00000050	0	0.00054	0.44	0.43	0
2 号炉	0.000013	0.000035	0.00000024	0.00074	0.59	0.95	

※測定結果は、コプラナーPCB を含んだ値です。

※1 ng(ナノグラム)は 10 億分の 1 グラムです。

※1 pg(ピコグラム)は 1 兆分の 1 グラムです。

※TEQ は、毒性等量のことで、ダイオキシン類の量をダイオキシン類の中で最も毒性の強い 2,3,7,8-四塩化ダイオキシンの毒性等量に換算した数値です。

※5 号炉ばいじん(飛灰)は、焼却炉の操業状況により 4 号炉のばいじん(飛灰)と混合された状態で採取し測定した値です。

※焼却炉の集じん装置は、バグフィルターです。

※汚泥については、新ごみ焼却施設建設工事に伴い廃水処理施設は解体され、4・5 号ごみ焼却施設内に仮設排水処理施設が新設されたことにより、発生した汚泥は同施設で処理することとなり、測定が不要となりました。

④　最終処分場

小平・村山・大和衛生組合で中間処理をした後の焼却残渣（焼却灰）は、25 市 1 町共同による東京たま広域資源循環組合でエコセメント化(エコセメントの原料として資源化)を行っています。

名称	東京たま広域資源循環組合		
所在地	西多摩郡日の出町大字大久野 7642 番地		
電話番号	(042)597-6151		
構成団体	25 市 1 町		
処分場の規模	面積	用地面積	約 59.1 ha
		開発面積	約 33.3 ha
		埋立地面積	約 18.4 ha
		管理施設等面積	約 14.9 ha
		残存緑地面積	約 25.8 ha
	埋立容量	全体埋立容量	約 370 万 ㎥
		廃棄物埋立容量	約 250 万 ㎥
		覆土容量	約 120 万 ㎥
埋立進捗率	44.7%（平成 30(2018)年度 年間進捗率 0.1%未満）		
エコセメント化施設	施設用地面積	約 4.6 ha	
	エコセメント平均生産量	約 430 t/日	




(左)エコセメント化施設の全景(平成 30 年(2018)7 月撮影)
(右)エコセメントで造られたベンチ

⑤　最終処分場への搬入量

小平・村山・大和衛生組合での焼却で発生した焼却残渣(焼却灰)は、東京たま広域資源循環組合(最終処分場)に搬入しています。

【最終処分場搬入実績】

		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
搬入実績重量（ｔ）	(焼却残渣)	3,371	3,333	3,421	3,391	3,210
	(不燃残渣)	0	0	0	0	0
搬入実績容量（㎥）	(焼却残渣)	2,855	2,827	2,880	2,875	2,709
	(不燃残渣)	0	0	0	0	0
(参考)	(焼却残渣)	0.85	0.85	0.84	0.85	0.84
体積換算係数（㎥/t）	(不燃残渣)	-	-	-	-	-

⑥　最終処分場での処分

東京たま広域資源循環組合(最終処分場)に搬入された焼却残渣(焼却灰)は、エコセメントに再生されています。中間処理施設で焼却された小平市のごみの量(焼却量)に対するエコセメント化した量と埋立てで処理された埋立量は、次のとおりとなっています。

【最終処分場での処分実績】

(単位：t)

エコセメント化した量	3,210	埋立量	0
焼却量に対する割合	10.1%	ごみ量に対する割合	0.0%

※焼却量(31,684t)

※ごみ量(32,319t)

※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

⑦　三多摩は一つなり交流事業

東京たま広域資源循環組合では、平成 11(1999)年度より、多摩地域 25 市 1 町の組織団体及び日の出町が主催する文化・スポーツなどの事業にそれぞれの住民が参加して交流を図ることにより、廃棄物を排出する側と搬入される側との相互の理解をより一層深め、円滑な一般廃棄物広域処分事業の推進に寄与することを目的として「三多摩は一つなり交流事業」を実施しています。

小平市では例年、市民向けの環境学習講座として、日の出町にある谷戸沢処分場(平成 10(1998)年に埋立完了)・二ツ塚処分場（現在の焼却灰の搬入先）を中心に日の出町の景勝地を加えた見学バスツアーを実施しています。

(7) 啓発等看板配布

リサイクルセンター、東部出張所、西部出張所で、以下の啓発等の看板を配布しています。



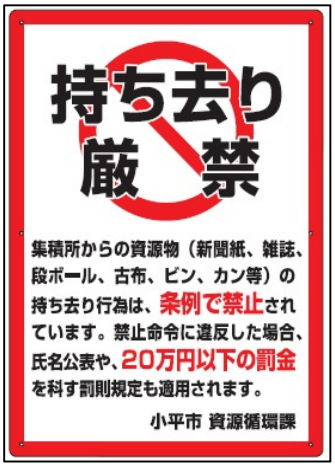
居住者以外禁止



ごみ出しルール



品格



持ち去り禁止



不法投棄禁止(1)



不法投棄禁止(2)

【啓発等看板配布枚数】　（単位：枚）

	2023 年度	2024 年度	2025 年度
居住者以外禁止	30	16	14
ごみ出しルール	38	9	48
品格	1	28	50
持ち去り禁止	0	12	2
不法投棄禁止(1)	85	86	143
不法投棄禁止(2)	94	87	76
合計	248	238	333

4　し尿処理事業

(1) し尿処理の概要

小平市は、昭和 40(1965)年度に、し尿及び汚泥の処理を目的として湖南衛生組合に加入しました。その後、公共下水道の敷設の進展と共に処理量は減少しています。

また、施設の老朽化も進んだことから、処理量の減少と併せて、効率的な施設運営を図るため、平成 20(2008)年度に前処理希釈方式による処理能力 6 kl/日の施設に改修しました。

し尿処理量は減少傾向にあるものの、建設現場の仮設トイレや種々の理由のため下水道接続が困難な状況等もあり、今後も、し尿処理が必要になると考えられます。

こうしたことから、湖南衛生組合では、引き続きし尿の共同処理を行うため、平成 26(2014)年度から平成 28(2016)年度にかけて、処理量に見合った新処理施設等の整備、不用施設の解体・撤去及び土地の有効利用を実施する「総合整備事業」を進め、施設を更新しました。

(2) し尿処理施設

小平市のし尿および汚泥は小平市、立川市、武蔵野市、小金井市、国分寺市、東大和市、武蔵村山市の 7 市で共同運営する湖南衛生組合によって処理されています。

名称	湖南衛生組合(湖南処理場)
所在地	武蔵村山市大南 5 丁目 1 番地
電話番号	(042)561-1551
敷地面積	29,552.72 ㎡

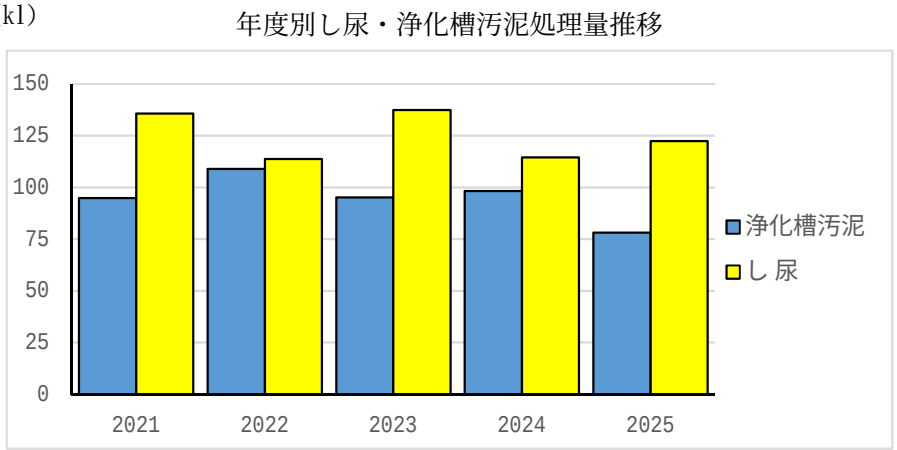
(3) し尿等処理量の推移

①　し尿及び浄化槽の状況

し尿・浄化槽汚泥処理量は大部分を事業系が占めており、その年の仮設トイレの設置基数等により年間処理量が増減します。

【年度別し尿・浄化槽汚泥処理量推移】　(単位：kl)

年度	2021	2022	2023	2024	2025
浄化槽汚泥	94.9	108.9	95.1	98.3	78.1
し 尿	135.7	113.7	137.4	114.4	122.4
総処理量	230.6	222.6	232.5	212.7	200.5
前年(%) (総処理量)	1.2	△ 3.5	4.4	△ 8.5	△ 5.7



【し尿処理人口(推計)別内訳】 (単位：人)

年度	2021	2022	2023	2024	2025
浄化槽	25	29	33	28	28
し尿	54	53	49	47	42

※令和 3(2021)年度より、5 年間以上利用がなかった人数を除いています。

② 湖南衛生組合し尿・浄化槽汚泥搬入実績表｜年度別・組織団体別 (単位：kl)

	立川市		武蔵野市		小金井市		小平市		国分寺市		東大和市		武蔵村山市		合計	
	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合
2021	-	-	171.8	21%	76.6	9%	230.6	27%	-	-	238.4	28%	125.8	15%	843.2	100%
2022	-	-	214.4	24%	76.1	9%	222.6	25%	-	-	233.5	26%	144.2	16%	890.8	100%
2023	279.8	22%	204.6	16%	76.2	6%	232.5	18%	138.6	11%	209.0	17%	120.4	10%	1261.1	100%
2024	259.5	21%	206.3	17%	90.8	8%	212.7	18%	125.3	10%	181.1	15%	130.9	11%	1206.6	100%
2025	289.2	24%	239.4	19%	76.2	6%	200.5	16%	134.2	11%	199.4	16%	101.3	8%	1240.2	100%

※令和 5(2023)年度より新たに立川市と国分寺市が湖南衛生組合に加入しました。

(4) 浄化槽清掃

浄化槽については、浄化槽法により必要な清掃の回数が定められています。

【浄化槽清掃件数の推移】 (単位：件)

年度	2021	2022	2023	2024	2025
清掃件数	41	53	43	46	48

5　資源化事業

(1) 資源化事業の概要

小平市では、循環型社会の実現のため、様々な 3R を推進する取組を実施しています。

年度	取組内容
平成元(1989)	モデル地区での資源物の分別収集の開始
平成 3(1991)	コンポスト容器購入費補助(現：食物資源(生ごみ)処理機器購入費補助)制度
平成 4(1992)	協力店での白色トレイ回収の開始 リサイクルフェスティバル実行委員会(旧：ごみ減量推進実行委員会)の発足
平成 5(1993)	廃棄物減量等推進審議会の設置 市内全域で、古紙や古布、ビン、カンといった資源物の分別収集を開始 小平市リサイクルセンターがオープンし資源選別作業を開始
平成 6(1994)	廃棄物減量等推進員(愛称：クリーンメイトこだいら)の設置
平成 8(1996)	粗大ごみの有料化 リサイクルセンター増設工事により、ペットボトル再資源化施設及び粗大ごみ再生展示販売施設(リプレこだいら)を建設
平成 9(1997)	全市でペットボトルの分別収集の開始 優良な家具類の再生販売を開始 ペットボトル再資源化施設とリプレこだいらがオープン
平成 12(2000)	事業系ごみの全面有料化
平成 14(2002)	硬質のプラスチック製容器包装の全市収集を開始 剪定枝のチップ化事業を開始
平成 16(2004)	小学校の食物資源(生ごみ)一次処理物を使った堆肥を畑で利用し、その有効性と問題点を検証するモデル事業を開始
平成 20(2008)	落ち葉のリサイクル袋を作成し、希望者には貸出しを実施
平成 22(2010)	食物資源循環モデル事業を開始
平成 25(2013)	小型家電リサイクルのイベント回収及び拠点回収の開始 資源持ち去りの罰則の制定
平成 26(2014)	資源化品目の拡大 小型家電リサイクル法に基づく認定事業者と協定を締結し、宅配便による小型家電の自宅回収サービスを開始
平成 27(2015)	スマートフォン・タブレット端末向けに、ごみ分別アプリの運用を開始 小型家電リサイクルについて、市内図書館 6 か所に回収ボックスを増設
平成 28(2016)	未利用食品の回収を「フードドライブ」と称し、こだいら環境フェスティバルで本格実施
平成 29(2017)	食物資源循環事業の本格実施 小型家電リサイクルにおいて、「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」の実施
平成 30(2018)	リサイクルセンター設計・建設工事完了 ごみ分別アプリを単独版としてリニューアル エコショップこだいら認定制度の制定
令和元(2019)	家庭ごみ有料化及び戸別収集を実施 プラスチック製容器包装全量の分別収集及び資源化の実施 リサイクルセンターがオープン
令和 2(2020)	株式会社セブン－イレブン・ジャパンとの協定によるペットボトル店頭回収の実施
令和 3(2021)	てまえどり運動の取組の実施 雑がみ袋を全戸に配布(パンフレットに同封)及び作成手順紹介動画を配信
令和 4(2022)	株式会社ジモティーとの協定の締結
令和 5(2023)	こだいら食べきり協力店登録制度の実施 株式会社マーケットエンタープライズ(おいくら)との協定の締結 株式会社セブン＆アイ・フードシステムズ(デニーズ)との協定の締結
令和 7(2025)	小平グルめぐりスタンプラリーとの連携による、こだいら食べきり協力店登録制度の推進

(2) 資源回収売払金の推移｜行政回収

各資源の市況により、売払い金は毎年大きく変動します。

【資源回収売払金の推移】 (単位：円)

年度	2021	2022	2023	2024	2025
生ビン	100,536	105,258	98,845	100,519	80,378
アルミ缶	59,072,200	63,096,410	57,333,485	76,314,590	80,066,715
スチール缶	7,859,234	7,897,355	7,204,285	6,073,447	5,225,426
新聞紙	5,263,690	8,335,100	7,717,020	7,765,300	7,729,700
雑誌	15,227,540	28,265,455	24,367,315	24,251,670	22,426,350
ダンボール	13,344,180	19,602,820	17,921,200	17,542,130	17,301,590
古布	3,833,140	5,018,790	9,104,200	11,865,280	13,590,450
ふとん	106,230	103,290	91,720	70,840	73,960
紙パック	47,740	50,190	50,470	51,730	48,020
その他	297,510	2,432,760	2,590,320	2,903,820	2,639,810
小　計	105,152,000	134,907,428	126,478,860	146,939,326	149,182,399
消費税	10,515,194	13,490,736	12,647,881	14,693,928	14,918,236
小型家電	104,489	192,788	239,756	853,050	903,870
廃食油	16,544	13,860	15,145	33,308	31,724
陶磁器	0	0	31,240	46,310	33,660
小型充電式電池	0	0	0	328	51,136
合　計	115,788,227	148,604,812	139,412,882	162,566,250	165,121,025

※小型家電、廃食油、陶磁器、小型充電式電池については、税込の金額となっています。

※陶磁器、小型充電式電池については、売却できない分を別途委託により再資源化していますが、そのことに係る費用は本表に含まれません。

※陶磁器については、令和 5(2023)年 9 月から売却を開始しました。

※小型充電式電池については、令和 6(2024)年度より東京都が実施した広域的資源化モデル事業に参加したことに伴い売払金が発生しています。

(3) リサイクル施設

① 小平市リサイクルセンター

小平市リサイクルセンターは、ビン・カンを中心とした資源の選別・圧縮等の中間処理を行う資源化エリアと、資源循環課窓口、各種見学設備、リプレこだいらを備えたプラザエリアにより構成されています。また、旧リサイクルセンターの跡地をリサイクルセンター広場として整備し、令和 4(2022)年 3 月より供用開始しています。

施設名称	小平市リサイクルセンター
所在地	小平市小川東町 5 丁目 19 番 10 号
用途地域	準工業地域
主要用途	工場
構造・規模	鉄骨造 2 階建
敷地面積	11,447.00 ㎡
建築面積	2,916.31 ㎡
各階床面積	1 階：2,737.63 ㎡、2 階：1,347.47 ㎡
延床面積	4,085.10 ㎡
処理能力	ビン　12.6 t/5 h カン　 5.6 t/5 h
建設費	約 13 億 6,267 万円
建設年度	平成 30(2018)年度
主要機器	供給・搬送コンベヤ 破袋機・小袋破袋機 除袋機 磁選機 アルミ選別機 カンプレス機



リサイクルセンター

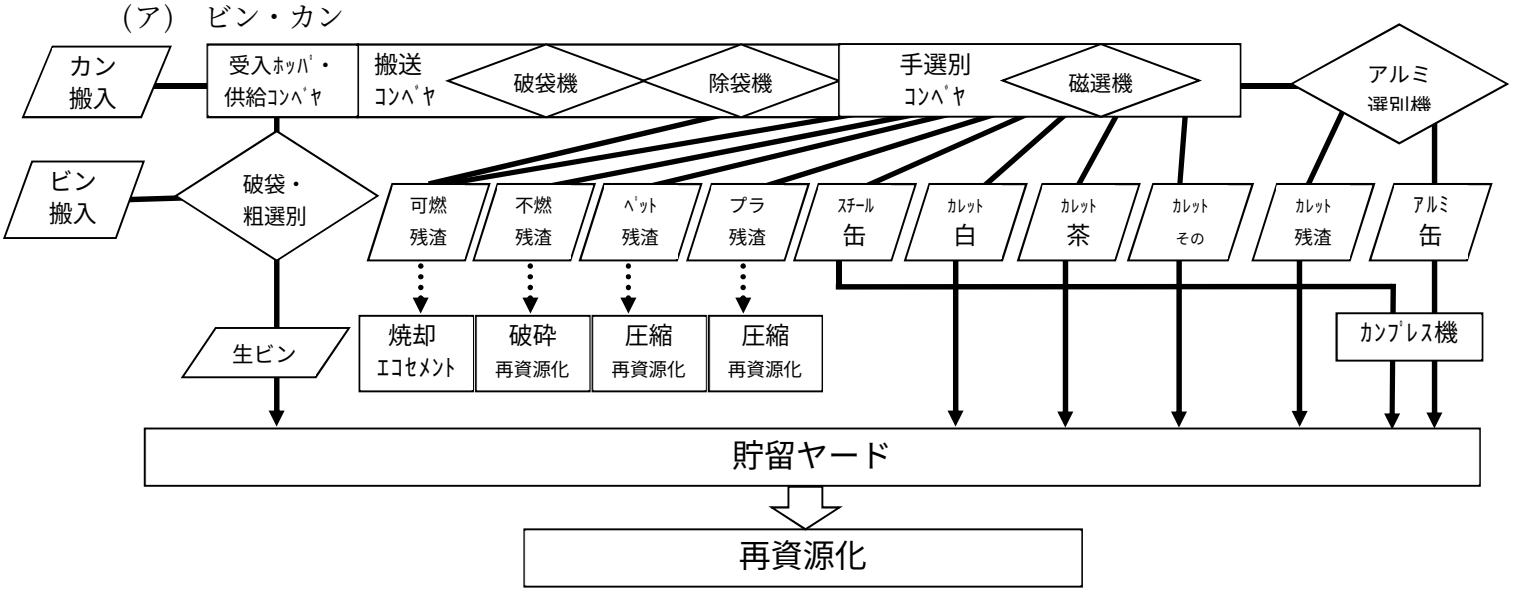


リサイクルセンター広場

【リサイクルセンター再資源化フロー】

主な資源の処理は以下のような流れとなっており、最終的に再資源化業者に引き渡しを行います。

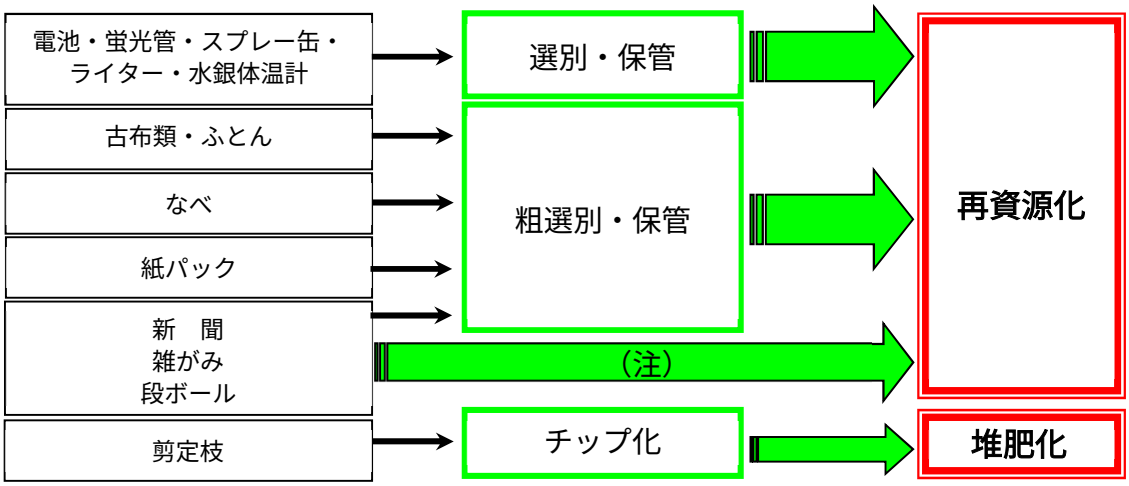
（ア） ビン・カン



※ビン、カンの選別作業は、同一ラインで処理日・時間帯を分けて行っています。

※ ⋯⋯▶ の処理は、他の施設で行っています。

（イ） その他の資源（有害性資源、古布類、なべ、紙パック、古紙類、剪定枝）



※古紙類は収集後、リサイクルセンターを経由せずに再資源化業者へ直納しており、市民による直接持込分のみリサイクルセンターで受け入れています(持込分は古紙類全体の約 0.2%程度)。

② 小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設

小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設は、小平市、東大和市、武蔵村山市の家庭などから排出されるペットボトルとプラスチック製容器包装の選別・圧縮・梱包・保管を行う施設です。

また、資源の有効利用や資源循環の仕組みを学べる研修室などがあり、環境啓発活動も行える施設となっています。

施設名称	小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設 (エコプラザ　スリーハーモニー)
所在地	東大和市桜が丘 2 丁目 122 番地の 2
用途地域	工業地域
主要用途	ゴミ焼却場その他の処理施設
敷地面積	4,311.64 ㎡
構造・規模	鉄骨造・地上 3 階建
建築面積	1,878.95 ㎡
１階床面積	1,814.52 ㎡
２階床面積	577.15 ㎡
３階床面積	1,115.90 ㎡
延床面積	3,612.62 ㎡
処理能力	ペットボトル系列　6.0 t/5 h プラスチック製容器包装系列　17.0 t/5 h
建設費	約 25 億 4,318 万円(消費税込み)
工期	平成 29(2017)年 1 月から 平成 31(2019)年 4 月
主要機器	資源物クレーン 資源物供給コンベヤ 破袋機・破除袋機 比重差選別機 手選別コンベヤ 圧縮梱包機 集じん・脱臭・VOC 除去設備



資源物中間処理施設の外観



ベール化(圧縮)されたペットボトル

(4) 資源回収補助金｜集団回収

自治会、子ども会、マンション管理組合など地域の団体で行政に頼らず自主的な資源回収を補助する制度です。

① 補助金交付単価額｜令和 7(2025)年度

品目	単価	品目	単価	品目	単価
繊維類	7 円/kg	段ボール	＊9 円/kg	カレット	7 円/kg
新聞	＊9 円/kg	牛乳パック	9 円/kg	金属類	7 円/kg
雑誌類	＊9 円/kg	ビン類	7 円/本	アルミ缶	25 円/kg

※引取業者選定依頼書を提出した場合、新聞・雑誌類・段ボールは 6 円/kg

② 年度別回収実績

年 度	2021	2022	2023	2024	2025
回収量（kg）	1,768,516	1,700,203	1,606,463	1,577,634	1,552,448
補助金交付額（円）	13,918,322	13,375,813	12,676,034	12,483,625	12,434,778
交付団体数（団体）	107	103	101	99	96

③ 品目別回収量 (単位：kg)

年 度	2021	2022	2023	2024	2025
繊維類	97,973	95,659	85,774	86,860	85,215
紙 類	1,614,078	1,551,321	1,469,841	1,440,212	1,417,274
ビン類	0	0	0	0	0
カレット	44	0	0	8	0
金属類	16,027	15,485	15,103	14,573	14,669
アルミ缶	40,394	37,738	35,745	35,981	35,290
計	1,768,516	1,700,203	1,606,463	1,577,634	1,552,448

④ 令和 7(2025)年度 資源回収補助金交付団体数

上半期	95 団体
下半期	92 団体



(5) 食物資源循環事業

家庭から出る生ごみを食物資源として分別収集し、堆肥化する事業です。

平成 22(2010)年度から、モデル事業として、毎年 100 世帯程度の拡大を続け、平成 28(2016)年度に参加登録世帯数がおおむね 1,000 世帯となりました。平成 29(2017)年度から事業を本格実施とし、家庭ごみ有料化を契機に令和 2(2020)年度に 1,200 世帯を超え、以降は同規模で継続実施しております。



【食物資源循環事業資源化実績】

年度	2021	2022	2023	2024	2025
参加登録世帯数	1,248	1,253	1,254	1,271	1,274
資源化量（t）	91	86	80	74	71

(6) 食物資源(生ごみ)処理機器購入費補助金

生ごみの自家処理を促進するために、小平市では食物資源(生ごみ)処理機器を購入した方を対象に補助制度を実施しています。

【食物資源(生ごみ)処理機器購入費補助金交付実績】

年度	基数	補助額(円)	補助金交付対象
2021	160	2,549,800	全機種対応　購入金額の 1/2 上限　30,000 円(家庭用)　300,000 円(業務用) ※処理機器は、日量処理能力が 10kg 未満のものを家庭用、10 kg以上のものを業務用としています。
2022	154	2,686,700	
2023	173	4,026,000	
2024	129	3,080,600	
2025	152	3,354,000	

【令和 7(2025)年度　機種別補助交付実績】

機種	基数	補助額(円)
ｺﾝﾎﾟｽﾀｰ系機種	5	48,900
ボカシ(EM)ｾｯﾄ	4	4,600
電動型(乾燥型)	136	3,090,500
電動型(分解型)	5	150,000
家庭その他	2	60,000
業務用	0	0
合計	152	3,354,000



(7) 陶磁器食器回収

予め日時と場所を定めて実施する拠点回収に加え、平成 31(2019)年 4 月からリサイクルセンターでの常時回収を開始しました。

【陶磁器食器回収実績】

年度	2021	2022	2023	2024	2025
拠点回収回数(回)	5	6	6	7	6
拠点回収量(kg)	3,840	3,571	3,290	2,780	1,586
常時回収量(kg)	7,316	10,579	8,030	9,340	6,584
回収量合計(kg)	11,156	14,150	11,320	12,120	8,170

※拠点回収はごみゼロフリーマーケット、環境グリーンフェスティバル、リサイクルきゃらばん(小川西グラウンド、中央図書館・公民館西側駐車場、いなげや小平回田店、東部公園、いなげや小平小川橋店)で回収したものの合計です。令和７年度のごみゼロフリーマーケットは雨天中止となったので回収ができませんでした。

(8) 小型家電回収

「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」は平成 31(2019)年 3 月 31 日で終了しましたが、小型家電の回収は継続し、再利用・資源化を行っています。

なお、回収と資源化のタイミングが異なるため、年度内の回収量と資源化量が一致しない場合があります。

【小型家電回収実績】

年度	2021	2022	2023	2024	2025
回収量(kg)	7,370	5,950	7,260	9,180	8,980
資源化量(kg)	6,610	5,950	7,260	9,180	8,980

※回収方法：市役所、東部市民センター、西部市民センター、リサイクルセンターに加え、中央・喜平・上宿・津田・大沼図書館、なかまちテラス、鈴木公民館、上水新町地域センターに回収ボックスを設置して常時回収を行う他、環境グリーンフェスティバル、リサイクルきゃらばん(小川西グラウンド、中央図書館・公民館西側駐車場、いなげや小平回田店、東部公園、いなげや小平小川橋店)での拠点回収

(9) リプレこだいら

粗大ごみのうち一部優良なものや撤去された放置自転車の一部を小平市シルバー人材センターの会員が修理し、展示販売しています。

【リプレこだいら販売実績】令和 7(2025)年度

品目	点数	販売金額 (円)
整理タンス	156	764,300
その他タンス	97	501,900
食器棚	257	967,800
レンジ台	520	1,459,800
本棚・スチール棚	456	1,041,950
テーブル・座卓	149	673,800
机	328	302,550
いす	233	501,300
ソファー・マット	85	201,600
ベッド	92	338,650
その他	581	865,550
修理	31	160,300
配送	333	861,500
返品	-10	-39,900
自転車	207	2,477,320
自転車修理	238	536,580
自転車配達	5	10,000
自転車返品	-1	-14,000
計	3,757	11,611,000

※(公社)小平市シルバー人材センター資料より

(10) 年賀ハガキ等回収

不要になっても、個人情報が載っているはがきは手放しにくいものですが、はがき回収ボックスに投函していただくと、一旦市で預かり、紙類のリサイクル工場で資源化されます。

【年賀ハガキ等回収実績】 （単位：kg）

年度	2021	2022	2023	2024	2025
郵便局計	376.5	319.0	288.0	218.3	221.3
市役所本庁舎	340.0	141.0	190.5	190.8	183.4
東部出張所	205.0	76.0	86.0	51.5	16.4
西部出張所	100.0	13.0	8.0	25.1	17.0
リサイクルセンター	-	-	14.3	28.0	54.5
計	1021.5	549.0	586.8	513.7	492.6

※郵便局実施期間　暑中見舞いハガキ：8 月～9 月　年賀ハガキ：1 月～2 月

※リサイクルセンター分については、令和 5(2023)年 10 月から集計開始